

神奈川ネットワーク運動の小室卓重です。

上地市長の所信表明について、発言通告に従い、質問をいたします。

市長は、議員時代の 2015 年第 2 回定例会の一般質問で、「人々の暮らしの中に一番なくてはならない愛と夢が語られないまま、まちづくりが進行し続け、市民は惰性の中に埋没して、人と人とのつながりを取り戻すことを忘れてしまっているように感じられる」とおっしゃいました。

2015 年第 2 回定例会は、私が議員になって最初の定例会です。私が議員になろうと思ったきっかけは、「怒り」ですから、初めての議会で「愛と夢」などと聞くとは、それこそ努々思っていなかったので大変印象に残っています。

その時、私の怒りが、愛と夢が叶えにくいこのまちの在り方にあることを、あらためて認識しました。

神奈川ネットワーク運動のまちづくりの基本的な考え方は、「市民協働」と「人間の安全保障」です。一人一人が認められ、主体となって生きることができる考え方だからです。「市民協働」「人間の安全保障」は、言い換えると愛と夢だと思います。しかし、言葉に込める意味や、言葉から受け取るものは人それぞれですから、シンプルな所信表明からはわかりにくかった事柄について、以下質問をさせていただきます。

(横須賀の復活について)

さて、最初に、市長の看板ともいえるべき「横須賀復活」について伺います。

恐縮ながら、少し自分のこととお話します。同じような市民がいるだろうと思いますのでお話します。

三浦市で育った私にとって、子どもころ、横須賀はお出掛けするまちでした。母に連れられ、さいか屋の食堂でソフトクリームやクリームソーダをいただいたことは懐かしい思い出です。中学生になると友達と買い物に、高校は横須賀市内に通学しました。その後、転入して 21 年になります。少しずつ横須賀にスライドしてきて今に至るといったところでしょうか。私にとって、横須賀は、かつて憧れの地であり、青春を過ごしたまちですから、「復活」という言葉には心をくすぐられます。

一方、このまちで子育てをしてきたこと、また、子育て支援をしてきたこと

を振り返るとき、目指すべきは果たして「復活」なのかとの思いも湧いてきます。

市長も自ら述べておられるように、「復活」という言葉には、最近の人はピンと来ていないでしょう。最近の人とは、誰でしょうか。それは、若い世代と、横須賀に縁は無かったが転入してきた方々、つまり、市長がイメージされている良き日の横須賀を知らない方々です。

まちづくりの主役は、市民です。市民の心にすっと落ちない「復活」の名の下に市政を進めていくことには不安を覚えます。

「復活」の先には「誰も一人にさせないまち」があるのだと、市長はおっしゃっています。私は、子育て中の孤独を経験し、また、多くの同じ経験をした方々を見てきたことから、「誰も一人にさせないまち」は大いに望むところです。訓示で用いられた「忠恕」ともつながる考えだと思います。

ですが、「復活」の先に「誰も一人にさせないまち」があるといわれても、「復活」以上にピンときません。「復活」と「誰も一人にさせないまち」の関係性について、わかりやすくお示してください。

(基本方針について)

基本方針については、住民福祉の向上と経済の活性化が政治・行政の要諦であるというお考えとのことですが、住民福祉とは何を指していますか、お示してください。

基本方針の冒頭にこの2つを掲げ、結びに「積極投資を基本方針として施策を展開していきます」とおっしゃっています。住民福祉の向上と経済の活性化に積極投資するということでしょうか、お答えください。

(3つの構想)

3つの構想の中では、まずは海洋都市構想について伺います。

自由が丘、吉祥寺、麻布を例えに挙げていらっしゃるんですが、その意図は何でしょうか、お答えください。

マリンレジャー・マリンスポーツの充実については、秋谷海岸における水上バイク問題などもあったことから、心配です。マリンレジャー・マリンスポーツを行おうとする場所の、その地域での市民の暮らしを守ることと、どのように折り合っていくつもりでしょうか、お考えをお示してください。

谷戸再生構想について伺います。

「地域は学びの場になり、誰もが先生になる」という考えには同感です。しかし、これだけでは足りないと思います。負うた子に教えられて浅瀬を渡るごとく、大人が子どもに教えられることも多々あります。地域での暮らしが豊かなものになるためには、誰もが互いに認め合うことが大切です。いじめや虐待が社会問題となっていますが、人権意識の浸透が解決への一つの糸口だと思います。これは、子どもと大人が共に学ばないと意味がありません。子どもと大人が共に学びあえる場を地域の中に作っていくことについてのお考えをお示ください。

(4つの計画)

次に「4つの計画」について伺います。

経済・産業については、中心市街地、追浜駅前、JR久里浜駅周辺の再開発を実現させるとのことです。追浜や久里浜はバス路線のない高台の住宅地が控えていますから、暮らしやすさの観点からコミュニティバス導入を促進する計画も示されており、高齢者や子育て中の方には特に期待されることと思います。

とはいえ、新しくなったまちには若い人向けの店ばかりになり、高齢者が買い物難民になることのないようにと考えます。そのための方策は何かお考えでしょうか。

恵まれた自然や歴史遺産を活用して、もっと人を呼び込むということですが、恵まれた自然の保全についてはどうお考えでしょうか。

また、歴史遺産については、中でも戦争遺産は負の歴史としての意味合いもあると考えますし、だからこそ、これらをもって平和を発信していきたいと考えますが、市長のお考えをお示してください。

子どもの教育については、幼稚園・保育園の段階的無償化を掲げていらっしゃいます。

幼稚園・保育園への入園が低年齢化している昨今ですが、本来楽しいはずの子育てを、制度に依って母親から取り上げてしまっはならないと思っています。

子育てを母親だけに押し付けない、でも、母親から取り上げない、子育ての社会化は、そのようにありたいと思っています。

3歳未満児にあつては、保育園・幼稚園を利用せずに家庭で子育てをする方々が7割から8割ですが、一時預かりも足りていません。

また、幼稚園・保育園以外を利用している方々もいらっしゃいます。

幼稚園・保育園の無償化が、幼稚園・保育園を利用しない方々や、幼稚園・保育園以外を利用する方々との不公平があつてはならないと考えますが、その点はいかがお考えでしょうか。

学力向上については、基本的な生活習慣が整わずに学力の伸びない子どもたちへの支援、つまり、子育て・子育ての支援を優先すべきと考えますが、市長のお考えをお聞きします。

また、そのためには、必要とする家庭に必要な社会資源をつなげるスクール・ソーシャル・ワーカーを拡充すべきと考えますが、市長のお考えはいかがですか。

放課後児童クラブへの支援についてはもちろんですが、留守家庭児のみならず、放課後全体についてのビジョンをお聞かせください。

さて、暮らしやすさのための方策として、AIを活用した相談機能の充実が挙げられています、どのような相談について実施するのでしょうか、お示しください。

福祉の現場については、介護においてはロボットの導入に言及していらっしゃいますが、保育現場については具体がありませんので、お聞かせください。

(ファシリティマネジメント)

ファシリティマネジメントについては、現行の計画を凍結するとのこと。これは、「施設配置適正化計画」のことだと思いますが、市民の生活や活動に直接かかわるだけに、多くの市民が注目してきた計画です。見直しには賛成ですが、言葉は一本化し、市政が市民から遠いものにならないようにしたほうがよいように思いますが、お考えはいかがでしょうか。

また、今後も人口が減っていく中、衰退させずにダウンサイジングするためには、市民協働は不可欠と考えますが、市長は市民協働にどのような期待をお持ちでしょうか。お聞かせください。

(基地について)

安全保障については、人間の安全保障が言われ始めてからもう10年以上がたちますが、世界は未だ恐怖と欠乏に脅かされています。現在は、軍事力を用いたの安全保障が伝統的安全保障とも呼ばれる中、「基地のある横須賀に誇りを持つべき」と市長はおっしゃいます。これは、市民全員がそう思うべきという意味なのでしょうか、お尋ねします。

市長のおっしゃる「私にとっては米軍関係者も市民」とは、どのようなことなのか、ご説明下さい。

「自衛隊、米軍関係者と意見交換し、新たな方策や課題解決に取り組む」とのことですが、当面の「課題」とは何だとお考えでしょうか、お示してください。

また、方策については、市民と共有すべきで、そのためには市が主催する市民集会などの必要もあるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

以上で1問目を終わります。